

# 第5回

# 地域のたから 自慢の逸品

## 「仙台の「当地ビール」」・仙台市博物館 学芸員 水野 沙織

### 日本人とビールの出会い

今年も暑い夏がやってきました。日本人がこよなく愛するビールですが、その存在が広く知られるようになったのは明治時代のこと。

日本人がビールについて記した文献は、享保九年（一七二四）にオランダ通事の今村市兵衛・名村五兵衛が刊行した『和蘭問答』が最も古いとされています。仙台藩関係者を見ると、仙台藩医の大槻玄沢が『蘭説弁惑』でビールの効能に触れ、水沢出身の蘭学者高野長英は『救荒二物考』でビールの醸造法を紹介しています。また、仙台藩士の玉蟲左太夫が、幕府の日米修好通商条約批准のための使節に随行した際の記録『航米日録』の中で「苦気あれども口を湿すに足る」とビールを批評したことは、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

さて、日本のビール醸造事業は明治初年に居留外国人によって横浜の山の手で始まったのが最初といわれています。その後、ビールの産業の将来性に着目した醸造家、洋酒販売者、開拓使などの行政機関が醸造に乗り出し、明治二〇年代には日本各地に中小規模のビール醸造所が次々に設立され、ビールが人々に認知されるようになっていったのです。

### 仙台初の地ビールはドイツ風

仙台では明治一三年（一八八〇）に初代仙

台区長松倉恂の子・卯平が「麦酒醸造免許鑑札」を受けて、醸造を始めています。同年

八月の記録には、松倉恂と宮城県会議員の増田繁幸、一関藩出身の司法官本間季明が協同して起業し、醸造場は名取郡長町の松倉宅に設けられ、醸造設備や労働者の手配などの実務は松倉が担当したことが記されています。当時、ビール醸造業には酒造免許税のみが課せられ、製造高に対して課税される造石税がかげられない、洋酒産業の振興が図られていた時代。小規模経営者がビール醸造業に進出しやすい状況だったのです。

香濤舎と称したこの会社に杜氏として招かれたのは、開拓使麦取醸造所出身の片倉広。明治九年（一八七六）札幌に設立された官営の開拓使麦取醸造所では、ドイツで醸造技術を学んだ日本人技師を雇い入れ、「冷製麦酒」（熱処理を行わないビール）を製造していました。香濤舎でも「独逸式冷製方」という醸造法を採用しています。材料は大麦、水、酵母、ホップと現在とほぼ同じ。ホップは、明治一四年にはドイツ産が大半を占めていました。

明治一五年度の実際の製造高は三〇石（五四〇〇リットル）、「宮城麦酒」の銘柄で小売価格は瓶一本（四合）二五銭（※蕎麦一杯一銭）と、高級品だったことがわかります。製造高は多くはありませんが、香濤舎は仙台をはじめ大河原まで販路を広げ、味も上等と好評を得ていました。当時、小規模経営者の多

くが発酵期間の短いイギリス風のエールビールを製造するなか、仙台では発酵温度が低く発酵期間が長いドイツ風のラガービールが味わえたのです。香濤舎の廃業時期は不明ですが、明治三四年（一九〇一）ビールに造石税が課せられると、全国各地にあった中小規模の醸造所は姿を消していききました。

### その後のビール事情

大正八年（一九一九）、札幌農学校を卒業した福島禎造ら仙台の有力者によって小田原に東洋醸造（フジビール）が設立されました。禁酒法が施行されたアメリカのニューベツレーム社の機械一式を購入し、ビールの国内流通および輸出増を見込んでの起業でした。しかし、経営は軌道にのらず、大正一二年に麒麟麦酒に買収されますが、直後に起きた関東大震災により麒麟麦酒横浜工場が壊滅すると、仙台工場は東の主力工場としてフル回転。高まる需要に応えました。昭和五八年（一九八三）施設拡張のため仙台港隣接地に移転します。また、昭和四八年（一九七三）には名取市にサツポロビール仙台工場が開業しました。

平成六年（一九九四）、ビールの年間最低製造数量が規制緩和されたため、日本各地で多種多様な地ビールが誕生しています。もちろん宮城県にもご当地ビールが登場、これらの発展が楽しみです。



松倉謹製麦酒と宮城麦酒のラベル(個人蔵)

東日本大震災復興祈念特別展

## 奈良・国宝 室生寺の仏たち

平成26年8月24日(日)まで 好評開催中

——「女人高野」から、癒しの「みほとけ」が東北初出陳——

開館時間：午前9時～午後4時45分（最終入館午後4時15分） 休館日：月曜日

【観覧料】一般：1,400円 大学・高校生：1,100円 小・中学生：700円

※この他、各種割引があります。詳細は博物館までお問い合わせください。

- 主催：大本山室生寺、「奈良・国宝室生寺の仏たち」実行委員会（仙台市博物館、日本経済新聞社、河北新報社、仙台放送）
- 協賛：セコム、大伴社、日本製紙、社の都信用金庫
- 協力：あいおいニッセイ同和損害保険、飛鳥園、岡村印刷工業、金澤製作所、公益財団法人土門拳記念館、善術商事、大光電機、ニコイメーキングジャパン

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 SENDAI CITY MUSEUM http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/



国宝 十一面観音菩薩立像(部分) 平安時代 室生寺蔵 撮影：飛鳥園

第23回仙台市史セミナー

## 仙台藩の 刑罰

講師：吉田正志 氏

（東北大学名誉教授・仙台市史編さん委員）

『仙台市史』で取り上げられている仙台藩の罪と罰を中心に、他藩との比較などを通じて、仙台藩の刑罰の特徴を明らかにします。

日時：平成26年9月7日(日) 13:30-15:30

場所：仙台市博物館ホール

○入場無料 申込制(定員：200名)

※聴講ご希望の方は、往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、仙台市博物館「市史セミナー」係まで。

※1名につき1通の往復はがきでお申込みください。

※申込受付期間：8/1(金)～8/23(土) 〆切当日消印有効 応募多数の場合は抽選